

拝見牧野博士からの手紙

里見哲夫先生の植物愛を実感

（群馬県・下仁田町）



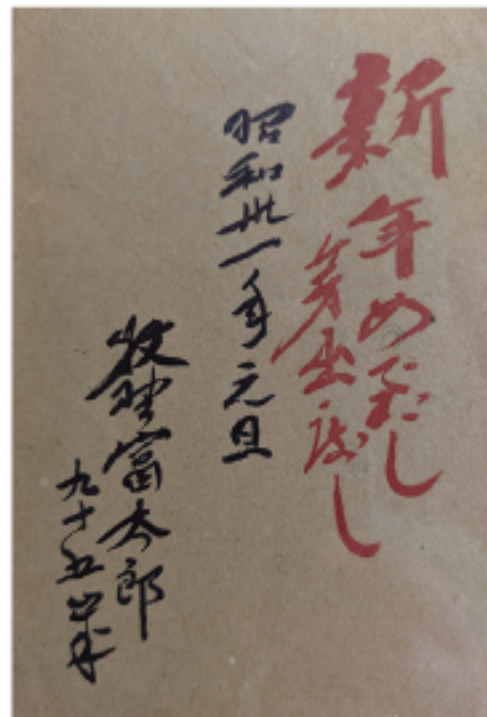
下仁田町を流れる鏡川と青岩公園、後の山は大崩山（おおぐいやま）

物を採集してわからない種があり、牧野博士に手紙を出したところ、丁寧な返信がありびっくり。「研究にすべてをかけていらっしゃる。これは誰もかなわないと痛感した」そうです。その後、依頼を受けて下仁田ネギを送ったり、年賀状も1956年まで三通戴いたとのこと。見せていただいた、博士が亡くなる前年、1956年の年賀状には「新年めでたし 芽出度し」と記されていました。

おかげさまで「牧野人」のネットワークが広がっています。群馬県西南部、地質的に中央構造線の東縁に位置する下仁田町で、生前の牧野富太郎博士と交流のあった植物学者・里見哲夫先生（1928年生）と出会うことができました。



里見哲夫先生



牧野博士からの年賀状（昭和31年）

牧野博士からの手紙をきっかけに「博士の後を継ぎたい」と決心した里見先生は博士没後、国立科学博物館はじめ東京都立大学等の植物学者より指導を受け始め、後に発行される『群馬県植物誌』では編集委員を務めました。1971年、天皇陛下に榛名山の植物をご案内。1973年、天皇陛下に赤城山の植物をご案内。1988年、下仁田中学校定年退職（校長）後、下仁田教育長を務めました。



里見哲夫先生の部屋

2005年には瑞宝双光章を受章されています。里見先生を取材した場所は下仁田町の旧西牧小学校を活用したパワースポット「女性村 ねぎぼうず」（運営・NPO法人日本子守唄協会理事長・西館牧子）で、一つの教室が「里見哲夫先生の部屋」になっていました。



イヌノフグリの標本（2024年5月1日採集）

今では稀少種となったイヌノフグリの標本（写真）の採集年月日には昨年の「2024年5月1日」と記されており、今でも精力的に活動されている里見先生の植物愛

そこには『植物方言集―群馬県』（1966）、『群馬県植物誌改訂版』（1987）、『谷川連峰学術調査報告書』（1992）等里見先生が関わった書物はもちろん、サルやツキノワグマ等の頭蓋骨、トチやマテバシイ等の種、アシナガバチの仲間のハチの巣、里見先生が採集した植物標本等々が展示され、ほんとに生きた理科教室でした。



里見哲夫先生と筆者

紅葉の季節が終わりが明けたら、2月頃バイカオウレンが見頃を迎えます次号もよろしく願いたします

晩年の牧野博士の手紙得て我も目指さん植物の道偉大なる牧野博士の業績を世に伝えんと高知より来る

里見先生から頂いた短歌を糧にこれからも牧野博士の顕彰活動を続けます。里見哲夫先生、本当に有難うございました。青岩公園等下仁田ジオパークは牧野博士の故郷佐川町と響き合うものを感じました。（市川浩司）

牧野富太郎の聖地を歩く秋の牧野公園編（高知県・佐川町）

博物学的ガイドで牧野ワールドを堪能

「探訪牧野博士の歩いた道」で姫路市、田辺市、仙台市等を「牧野人」は巡ってきましたが、今回は博士の生誕地・佐川町で開催された「牧野富太郎の聖地を歩く秋の牧野公園編」（主催：さかわ観光協会、協力：佐川さとやま遊友会）2025年10月11日開催）をお届けします。

牧野博士生家裏の西谷地区や牧野公園はなもりクラブが種から育てた博士ゆかりの山野草を楽しめる牧野公園（奥の土居地区）を巡る約2時間のコースです。案内役は高知県立牧野植物園のアドバイザー稲垣典年先生と佐川町内の牧野博士の歩いた道を整備している佐川さとやま遊友会の吉村典宏会長、同副会長の筆者もサポートしました。



西谷の整備をする佐川さとやま遊友会

当日は雨模様のなか県内外から23名の方々が参集。朝ドラ「らんまん」を契機に整備された観光駐車場から、まず牧野少年が駆け回った生家裏の湧き水（西谷の清水）のある西谷地区へ向かいました。稲垣先生は、「これはシウウカイドウ、ラテン語では？…ペゴニアです。ペゴニアは種類は多いが、一番身近なのがこのシウウカイドウです」、「これはツリフネソウ、鳳仙花の実を触ったら弾けるでしょう。これも一緒です。まだ実



スズムシバナ



ツリフネソウ



稲垣典年先生

地質の専門家の吉村会長は、南北13 Kmの佐川町は3、6億年間の地層が混在する日本でもまれな複雑な地層域であることが分かる地質図を配布し随所で地質の蘊蓄を披露。金峰神社（西谷側）の石段脇にある手洗い石の所では、牧野少年がここでこすって遊んだ石は、この周辺にある玄武岩質凝灰岩（海洋プレートを構成する岩石）

は膨らんでいませんね」、「スズムシバナはここ佐川で自慢できる花です。昔はスズムシソウと言っていたけど、同じ名前前のランがあるので今はスズムシバナと言っています」と西谷に咲く秋の植物を解説しました。



牧野少年が遊んだ手洗石



玄武岩質凝灰岩を解説する吉村典宏会長

牧野公園では、今年は9月末から咲き始めたジョウロウホトトギスについて、稲垣先生は次のように解説しました。「ジョウロウホトトギスというんです。紀伊の国で見つかったものはキイジョウロウホトトギス、黄色のジョウロウホトトギスというのではありません。神奈川県にはサガミジョウロウホトトギス、静岡県にはスルガジョウロウホトトギスがある。これをトサ（土佐）ジョウロウホトトギスと言うことがあるが、トサはつける必要はないんです。ジョウロウホトトギスという意味の上臈です」、「花に見える」外の3枚は萼（がく）、中の3枚が花びらです。学問的に言えばね。ユリの仲間ですから、ユリも外の3枚は萼で中の3枚が花びらです。今ではその六枚を花被片ということが多く

なった。地球上には牧野博士が最初に見つけた横倉山（越知町）、佐川町、旧葉山村（津野町）の石灰岩質の所にしか存在しない貴重な種です」。



ジョウロウホトトギスを解説する稲垣典年先生（右端）



ジョウロウホトトギス



ジョウロウホトトギス



フクリンササユリ

こういった感じで、稲垣先生からは牧野公園に咲く花々の知識が、吉村会長からは億年単位の地質の知識が伝えられ、参加者は博物学的ガイドに満ちた牧野ワールドの聖地を堪能しようです。さかわ観光協会は毎年6月には

豊かな自然、明るい未来を、
サプライチェーン・ロジスティクスで

郵船ロジスティクスグループは、持続可能な未来へ向けて、地域の皆さまとともに歩みます
https://www.yusen-logistics.com/jp_ja/

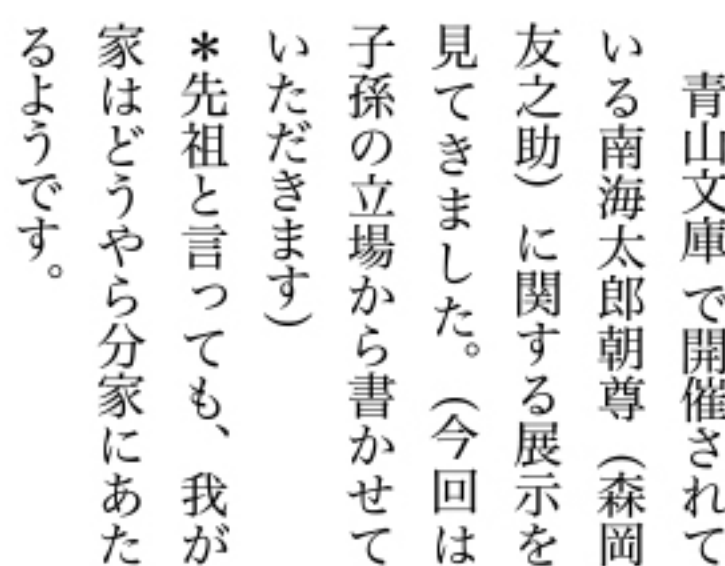
「牧野博士の聖地を歩く
虚空蔵山フクリンササユリ編」
（協力・NPO法人 とかの元気村）など
今後の開催日程などにつきましては
こちらをご覧ください。

さかわのしおり
さかわ観光協会

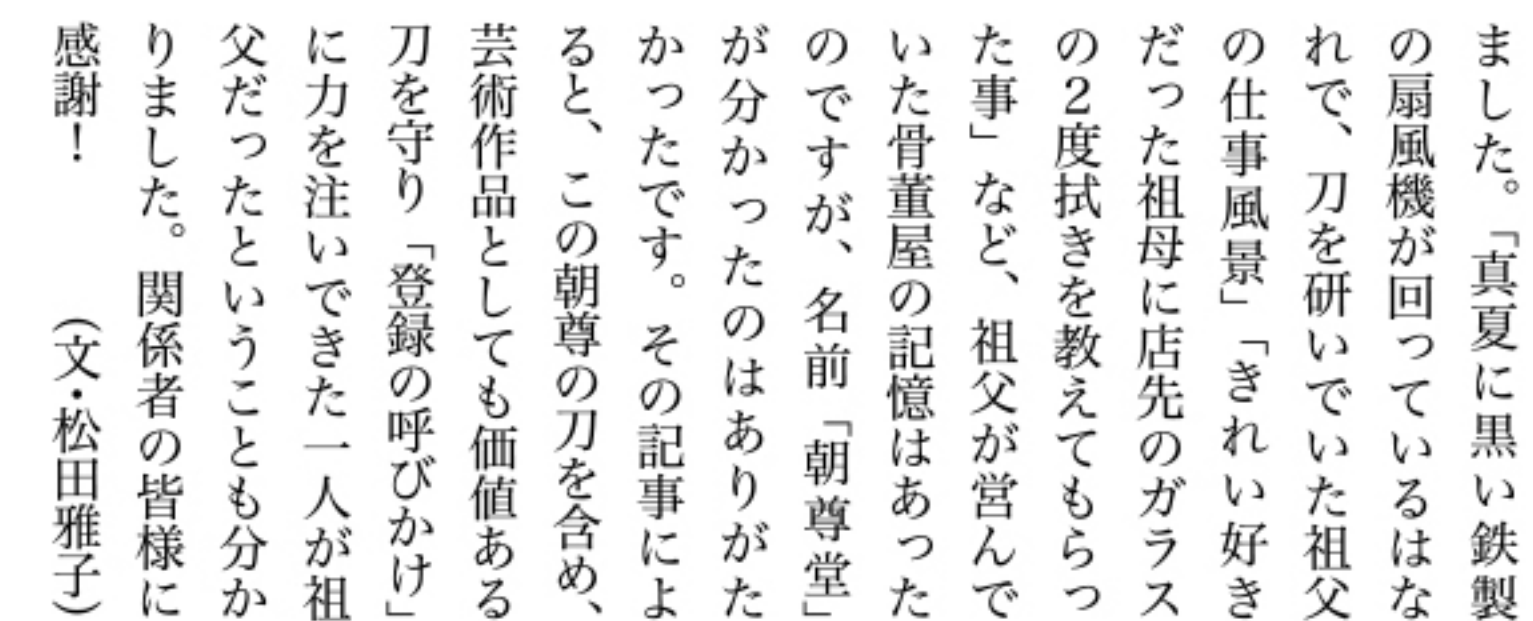
酒蔵ロード劇場が開催されます

[illegible]

特別展 南海太郎朝尊



祖父、父が相当の記録屋だったため、刀に関する資料ほか、系図や新聞への投稿記事などまとめてくれているものも多く「お陰でこのような展示に繋がりました」と、青山文庫の学芸員藤田有紀さんにも喜んでいただけました。

[illegible]